



真宗高田派

賢隆山

久遠寺

真宗高田派 賢隆山久遠寺
中区新栄二丁目

久遠寺ホームページ
<http://www.kuonji.net/>

不思議ないのちを生きて 伝灯を守り継ぐ古刹

「寺院めぐり」でお寺様に伺いますと、多くの寺院で共通の歴史としてお話しなのが「清洲越し」。新栄にあるCBC放送センターの東側の一面にある『賢隆山 久遠寺』様も「清洲越し」を経た寺院のひとつです。

「寺の過去帳には中興開山・浄光上人の代、慶長十五年（一六一〇）に清洲五条橋の朝日郷より移るとあり

ます。それ以前は、諸々の文献より伊勢国の楠（くす）城下にあつて、永禄十年（一五六七）に長島へ移転し、さらに元正元年（一五七三）に清洲へと移つたようです。」

お話をいただいたのは第十九世・高山 元智ご住職です。

「清洲では『久遠山見立寺』、また清洲越し後は『賢隆寺』と称したそうです。今の山号寺号に改めたのが宝暦十一年（一七六一）で、浄光上人を第一世とし、私で第十九世になります。」

宗派は『真宗高田派』。初めての紹介となりますが、三重・津市にある専修寺（せんじゅじ）を本山とする浄土真宗の一派で、久遠寺様はそもそも高田本山の直末寺であつたそうです。

お寺がある新栄辺り、往昔は「法華寺町」といつて現在でも歴史ある寺院が点在していますが、名古屋大空襲の戦災を経て後、大小のビルが建ち並ぶ街中へと様相が変わってしまいました。それに連れ、お寺の有様、人の有り

様も、といえるでしょうか。

「今『無縁社会』とかいわれて、関わりを持たない、持ちたくないという人が多くなつていいる。家族であつてもお互いに干渉しない、お寺には関心が無い、まして他人はなおさら、というふうにですね。しかし、生きてる限り何か、誰かと関わりを持つていいるのが人なんです。で、私がいつも言つてるのは『不思議ないのちを生活している』ということなんです。」

この言葉、檀家の皆さんならご存知でしょうが、『久遠』という寺報に掲げられている標語でもあります。

「人は誰しも、自分で生きてるんじゃない、いろんなご縁と関わつて生かされていいる、その『いのち』を不思議だなあといいことに気づいていただきたい。すれば、色々なことに関心を持ち、想像力を持つことが大事だというように思えてくるんです。現代は、その関わりやご縁を想像することが希薄になつていいる時代なんです。」

久遠寺様は、戦後の焼け野原だつた

境内地に昭和二十八年に本堂を再建、次いで庫裡、書院を整備し、平成十七年には新庫裡も建立されて「伝灯」を守り継いでこられました。ご住職によれば「仏と檀家のおかげ」ということです。これすなわち、檀家とのご縁・関わりを大事にしてこられた結果ではなかつたかと思うのです。

「それだけに責任を感じていいるし、この『伝灯』を消さないようにするのが自分の存在を問いつける事と思つております。」

ご住職は今年古稀を迎えられますが、久遠寺の「伝灯」は次の世代、ご子息の信雄さんにもしっかりと受け継がれつあるように実感いたしました。



戦後まもなくの昭和28年に再建された木造「本堂」



境内をご案内いただいたご子息の衆徒 高山 信雄さん



毎月開講される「法話会」の様子



阿彌陀如来像を本尊とする本堂内部



お話を伺つた第十九世ご住職 高山 元智 師